



書 晉
 源氏物語
 四十八
 三十一





五十一

○心ひつくと細又ひひのそん人よるる
○心ひのあつて一弄八宮の月

○世よとある 細世間の無常とくきり我も死
く下とく下とくも心よるるいと又大君のあひま
くひきりと也

○年わらうる 細文の刊

○今ハ一不の 或抄 中君ハくり也

○心ひつくと 河嶽毛詩薇同去筆 下略

○ていし 細手跡也

○引くるらて 細大略文よ書まらる奇はるのさ
とんせと詞よつとつとらるとれハ奇とハ引
とらつて奇と怪よんせとくも法師の沙汰
ありらう

○君よとそ奇 わらう也 花兼補集 都よハる
○心ひつくと心よつとつとらるとれハ奇とハ引
細故八宮の時れ嘉例とくもれらうと
或抄 恒例也
○あまうて 巴抄 披露伏也

○大まし 細 中君の心也わらう奇と一たう
とてこま案好ひつとらう

○ちとまらう 或抄 白宮の文ハ大くよとて
真寶よわらうとす偽のこまも也

心ひつくと細又ひひのそん人よるる
心ひのあつて一弄八宮の月
世よとある 細世間の無常とくきり我も死
く下とく下とくも心よるるいと又大君のあひま
くひきりと也
年わらうる 細文の刊
今ハ一不の 或抄 中君ハくり也
心ひつくと 河嶽毛詩薇同去筆 下略
ていし 細手跡也
引くるらて 細大略文よ書まらる奇はるのさ
とんせと詞よつとつとらるとれハ奇とハ引
とらつて奇と怪よんせとくも法師の沙汰
ありらう
君よとそ奇 わらう也 花兼補集 都よハる
心ひつくと心よつとつとらるとれハ奇とハ引
細故八宮の時れ嘉例とくもれらうと
或抄 恒例也
あまうて 巴抄 披露伏也
大まし 細 中君の心也わらう奇と一たう
とてこま案好ひつとらう
ちとまらう 或抄 白宮の文ハ大くよとて
真寶よわらうとす偽のこまも也

心ひつくと細又ひひのそん人よるる
心ひのあつて一弄八宮の月
世よとある 細世間の無常とくきり我も死
く下とく下とくも心よるるいと又大君のあひま
くひきりと也
年わらうる 細文の刊
今ハ一不の 或抄 中君ハくり也
心ひつくと 河嶽毛詩薇同去筆 下略
ていし 細手跡也
引くるらて 細大略文よ書まらる奇はるのさ
とんせと詞よつとつとらるとれハ奇とハ引
とらつて奇と怪よんせとくも法師の沙汰
ありらう
君よとそ奇 わらう也 花兼補集 都よハる
心ひつくと心よつとつとらるとれハ奇とハ引
細故八宮の時れ嘉例とくもれらうと
或抄 恒例也
あまうて 巴抄 披露伏也
大まし 細 中君の心也わらう奇と一たう
とてこま案好ひつとらう
ちとまらう 或抄 白宮の文ハ大くよとて
真寶よわらうとす偽のこまも也

○此春の奇中君也 河ゆきそ乃あ人もあくと春
のけいこよつあるまらふなりそり貫也

細州奇卷の名より八宮大君のそりもきまは
ねの我なりそり及と乃るいりり

或抄八宮のそり乃るそり峯の蔵されの大君と諸
共は又宮の形及と乃るれとも此春の大君のそりま

さひいれより乃るんと

○さくくの細大君のそり白宮の絶くまらる也

○むいへんと 弄わの君のそりあも人のせ房共の
乃る也

○さひいれより 細く乃る兄のそり多と乃るそり

そりいれよりそりあも人のせ房共の
乃る也
さひいれよりそりあも人のせ房共の
乃る也
さくくの細大君のそり白宮の絶くまらる也
むいへんと 弄わの君のそりあも人のせ房共の
乃る也
さひいれより 細く乃る兄のそり多と乃るそり

○さくくの細 終角卷のそり乃るそり
乃る也

○乃るあも乃る 巴抄董のそり乃るそり乃る也
のせ房共のそり乃るそり乃る也

○乃るあも乃る 細董の大君のそり乃るそり乃る也

乃るあも乃る 細董の大君のそり乃るそり乃る也
乃るあも乃る 巴抄董のそり乃るそり乃る也
のせ房共のそり乃るそり乃る也
乃るあも乃る 細董の大君のそり乃るそり乃る也

○我心もして 細のやうよ大やうよせりゆく

○ういまたせー 細 椎のしよあうし也

○うちも入く 細大君のよとと出る也

○あきのまう 弄 川よよとて来(日)ううはと
ふとさう

○月うらつらも 細 美入つてよの路河也

わが心もして 細のやうよ大やうよせりゆく
ういまたせー 細 椎のしよあうし也
うちも入く 細大君のよとと出る也
あきのまう 弄 川よよとて来(日)ううはと
ふとさう
月うらつらも 細 美入つてよの路河也

○あぬせり 細 外なむとさう

○とくしよー 細 中君の返もせしよ
とくしよー 細 中君の返もせしよ
或換 世房あふらうむひきて中君の返河也
あうへの返もてあう

○いとさうし 或換 中君の卑下也

あぬせり 細 外なむとさう
とくしよー 細 中君の返もせしよ
とくしよー 細 中君の返もせしよ
或換 世房あふらうむひきて中君の返河也
あうへの返もてあう
いとさうし 或換 中君の卑下也

早敷

○人ハ皆奇 弁尼也 孟 袖の浦出羽各不也
 新古今 袖のうれ岐抄とくと秋のきハ雲の
 へちとせとていへり

○ちかしく 奇 中君也 河 後 撰 心 へ へ
 舟よのうらちていとよはよあれぬ目よ
 細しうれやへていへり 尼君の袖もが
 せとて引哥とていへり
 ○世よ住つらん 細 中 君 弁 尼 の 神

○うらうら 孟 弁 尼 の 神

人ハ皆奇 弁尼也 孟 袖の浦出羽各不也
 新古今 袖のうれ岐抄とくと秋のきハ雲の
 へちとせとていへり
 ○ちかしく 奇 中君也 河 後 撰 心 へ へ
 舟よのうらちていとよはよあれぬ目よ
 細しうれやへていへり 尼君の袖もが
 せとて引哥とていへり
 ○世よ住つらん 細 中 君 弁 尼 の 神

○いへり 細 大 君 也

○うへり 弁 弁 尼 の 神
 又は君のゆと也 或 概 中 君 の 神
 ○はらの世に 河 君 と いへり
 きんむら 世に 河 君 と いへり
 巴 概 前 世 の 宿 統 々

○いへり 弁 弁 尼 の 神
 又は君のゆと也 或 概 中 君 の 神
 ○はらの世に 河 君 と いへり
 きんむら 世に 河 君 と いへり
 巴 概 前 世 の 宿 統 々

うへり 弁 弁 尼 の 神
 又は君のゆと也 或 概 中 君 の 神
 ○はらの世に 河 君 と いへり
 きんむら 世に 河 君 と いへり
 巴 概 前 世 の 宿 統 々
 ○いへり 弁 弁 尼 の 神
 又は君のゆと也 或 概 中 君 の 神
 ○はらの世に 河 君 と いへり
 きんむら 世に 河 君 と いへり
 巴 概 前 世 の 宿 統 々

○今ひとり 弄又車よのり人よ女房もろくし
○さうさう哥 細山哥しむらむらむら道理
しむらむら

○この中より 弄此女房もろく人よ君よ心してよ
しむらむら也いづら中君の心もろくもろく
いんむらむら也

○さうさうかこ 細中君ハ山道を初て見ゆア

○此の心よ 細白宮の心くろくし今も今も
よどい流しこ 或極中君の心也

しむらむらむらむら今も
もろくもろくもろくもろく
もろくもろくもろくもろく
もろくもろくもろくもろく
もろくもろくもろくもろく
もろくもろくもろくもろく
もろくもろくもろくもろく
もろくもろくもろくもろく
もろくもろくもろくもろく
もろくもろくもろくもろく

○さうさうむらむらハ哥 中君也 細 我ありむらハ月もろく
もろくもろくもろく
○さうさうさうて 弄我山里とむらむらむら
○年より何も 弄 白宮の心くろくし今も今も
何ももろくもろくもろく

もろくもろくもろくもろく
もろくもろくもろくもろく
もろくもろくもろくもろく
もろくもろくもろくもろく
もろくもろくもろくもろく
もろくもろくもろくもろく
もろくもろくもろくもろく
もろくもろくもろくもろく
もろくもろくもろくもろく
もろくもろくもろくもろく
もろくもろくもろくもろく

○さハありしハ 万水さつひてしあまうよき
ゆんしてハさくろくさ下のんありしハ也
○心ゆくハ 弁ゆくいとよき

○こころす 細中君の心也
或抄 莖とさくろくろくありしハ也
せんしゆくろくのぬハまろくろく

○うのくろ 細莖也 巴抄 莖とあやせり
さく董とあひ君のゆくろくろくハ莖ハ又中君と

わの君のろくろくと也

○足しゆくゆり 或抄 莖のぬんろくとさくろく
しゆくろくろくハもろくろく

○うろくよ 巴抄 白宮のろくろくとさくろく
さくろくろくハもろくろく

まじりてはかたしあはれん
づるもろくろくハもろくろく
しゆくろくろくハもろくろく
もあまろくろくハもろくろく
まじりてはかたしあはれん
ろくろくろくハもろくろく
ろくろくろくハもろくろく
ろくろくろくハもろくろく
ろくろくろくハもろくろく
ろくろくろくハもろくろく

ろくろくろくハもろくろく
ろくろくろくハもろくろく
ろくろくろくハもろくろく
ろくろくろくハもろくろく
ろくろくろくハもろくろく



